

# 学校プロジェクト報告書（2年目）

学校名	上山小学校
校長氏名	大矢 隆

## 1 学校紹介

上山小学校は、各学年4クラス、特別支援学級6クラスの編成で、今年度790人程の児童が在籍する大規模校である。「生を愛し 心を養う」の教育目標のもと、近年は「チーム力のある子ども」を中期目標として掲げ、「子ども同士で高めあう姿」を目指す子どもの姿としている。

「話し合い」「学び合い」を積極的に取り入れて、主体的・対話的で深い学びのある授業に取り組んでいる。特に、高学年の段階において、この「話し合い」「学び合い」は日常的になっていて、学力の定着につながっているととらえている。

## 2 実践テーマ

<テーマ>	メタ認知に基づく自己肯定感を育てるシステムの構築
-------	--------------------------

テーマ設定の理由

新潟市教育ビジョン第4期実施計画の、「中心的な考え方」における【視点1】によると、本市の小中学生は、大人や友達に認められる経験は豊富だが、自分の取組を振り返り、成長を実感すること（＝メタ認知）が十分ではないとの指摘がある。教員が日常的に行う「褒める」「認める」という働きかけだけでは不十分であることが課題とされており、これまで以上に「メタ認知に基づく自己肯定感」の育成を追究すべき段階にきている。また、市の生活学習意識調査の結果を分析したところ、当校も同様な傾向であり、この課題の追究が当校ひいては市の課題の解決の一助になると考え、上記のテーマを設定した。

## 3 実践内容

市教育ビジョン第4期実施計画の【視点1】「これからの社会で自信をもって自己実現していける子どもを育てます。」を、以下のような手立てにより追究することで、主体的な自己肯定感の高まりが期待できると考える。

- (1) 児童が行った教育活動（行事や授業）の振り返りを重視し、成長を実感（メタ認知）させる取組を試行・検証しながらシステム化を目指す。
- (2) 予想が困難な時代に向けて、変化にしなやかに対応できる力（レジリエンス）の育成方法について試行・検証する。
- (3) コミュニケーション能力を高めるスキルについて試行・検証する。
- (4) 「傾聴・受容」をさらに進め「自律」につながる支持的風土の醸成を目指す。
- (5) 【視点3】のコミュニティ・スクールを活用し地域と一体となった取組を進め、総合的な学習の時間を再編成し、自己肯定感につながる上山地域ならではの学びを創造する。

## 4 成果と課題

- (1) 具体的な状況から（7月の市生活学習意識調査より）

「①自分にはよいところがある」が88%（目標指標95%）、「②自分の考えを進んで伝える」が75%（目標指標75%）、「③先生以外の大人から褒められたり認められたりして、うれしいと感じる」が89%（目標指標90%）であった。11月の調査結果がまとまっていないため、7月時点の調査である。②③については順調であるが、①の結果が心配である。しかし、学年行事や「総合」の実践が進めば、数値は伸びるものと想定している。

- (2) 実践とともに見えてきた課題

引き続き、自分の成長を実感（メタ認知）できる児童を増やしていく。また、これからも児童が失敗から学ぶ経験、失敗をバネにして次につなげる経験を大切にし、レジリエンスの育成について、さらなる実践・検証を進める。コミュニケーションスキルの実践については、その有用性を感じているところであり、来年度もさらなる効果を求め実践・検証していく。一方で、学級になかなか適応できない、折り合いをつけることができない児童が増えてきている。他人の意見を受け止め、自分の意見と合わせて、よりよい結論を導き出す（合意形成）ことができる児童を育てることが、次の課題と考えている。